

自 平成28年4月 1日
至 平成29年3月31日

公益財団法人 ハーモニィセンター

平成28年度

事業計画書



公益財団法人ハーモニィセンター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
独立行政法人国立オリンピック記念
青少年総合センター内
電 話 03-3469-7691
FAX 03-3469-7714

目次

—はしがき—	… 2
1 ポニーキャンプ®、ポニークラブ®、動物広場、牧場等の運営……………	3
1－1 自然体験活動キャンプ	
1－2 蓼科ポニー牧場・ポニークラブ	
1－3 相馬ポニー牧場・ポニークラブ	
1－4 小貝川三次元プロジェクト……………	4
2 ポニーキャンプ®、ポニークラブ®、動物広場、牧場等の受託管理	
3 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及……………	6
4 川べり環境の整備及び活用の推進……………	7
5 国際文化交流、国際相互交流活動の推進	
6 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及……………	8
7 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信	
8 その他	

はしがき

新体制に移行して4年目となる28年度は、この3年の間にハード、ソフトの両面で準備、着手した取組みについて随時具体化を進める年とする。これからの10年を見据え、安定した団体運営、積極的な社会貢献実現のため、以下の取組みを進めていく。キーワードは調査・研究と実行。

① ポニー（繫養馬）の更新

100頭近い繫養馬の高齢化に対し、10年後の一新をめどに順次購入、繁殖、売却によるポニーの更新を進め、今後想定される新規事業受託や他団体からの要請に応えられる繫養馬体制を作る。

② 蓼科ポニー牧場改修

26年度より行った調査を基に、大規模修繕5ヶ年計画を平成29年度より実施するため、牧場の設置理念、目的、ビジョンの構築を行う。

③ 外部研究者・機関との協同研究・発信

高齢者・障害者のための乗馬、教育現場における馬の多様な利活用等々のテーマに関し、全国乗馬倶楽部振興協会、帯広畜産大学、治療的乗馬研究集会等との協力関係の下、調査・研究を重ね、その成果を広く発信してゆく。

④ 常設施設の開設・運営に対する積極的応援

全国各地から寄せられる新規施設開設やポニー導入に関する要請に積極的に対応していく。

⑤ 会員規模の拡大に向けて

魅力ある活動参加の機会を増やし、いかに活動そのものを会員及び社会の発展に寄与する高い付加価値を持ったものにしていくかを強く意識し、会員拡大につなげてゆく。

⑥ ポニーを軸に活動する様々な組織、会への支援

「ポニーステイ」の提案とそれに連なる「ポニークラブ事業」の集合体組織づくり。
e x. 「日本ポニークラブ協会」の設立等。

⑦ 提携団体NPO法人ハーモニカレッジ（鳥取）との連携、パートナーシップ強化

⑧ 茨城県土浦市における新事業（新拠点整備）の展開

⑨ 小貝川ポニー牧場移設に関する調査、研究

現行同様の活動が期待でき、利用者の利便性、牧場の効用を損なうことなく事業を展開できるよう近隣の場所探索を行う。土浦での新事業との関連性を深くする。

1 ポニーキャンプ®、ポニークラブ®、動物広場、牧場等の運営

1-1 自然体験活動キャンプ

一年を通して、5才から15才までの子どもたちに近年希薄になっているといわれているポニー乗馬体験を中心とした数々の自然体験活動、異年齢との交流体験を提供する。子どもたちは、同行するキャンプカウンセラー（ボランティアの青年たち）と共に、積極性、行動力、工夫する力、他者に対する思いやりの心、個々の個性等、「生きる力」を培っていく。

【年間の代々木事業所主催キャンプ】

	実施回数	延べ泊数	参加数	
			子ども	大人
長期	19回	62泊	810名	0名
短期	15回	33泊	275名	90名
受託	1回	3泊	42名	3名
計	35回	98泊	1,127名	93名

1-2 蓼科ポニー牧場・ポニークラブ

高学年の子ども達に、その先にある目標を提示し、ここ数年問題となっているキャンプ参加者の低年齢化に歯止めをかけ、普及に関しては、他団体・一般利用者のための利用しやすい体験コースを設定する。

近未来を見据えた組織内での利用しやすい馬匹を生産する。

【事業内容】

- ① 野外教育施設としてのポニーキャンプ（主催事業）・ボランティアリーダー研修。
- ② 蓼科乗馬会（年9回実施）
- ③ 蓼科ポニークラブ（月2回日曜日の午後）
- ④ 他団体日帰り・宿泊乗馬体験
- ⑤ 移動乗馬教室
- ⑥ 引き馬・乗馬レッスン
- ⑦ ハーモニセンタースタッフの乗馬技能・馬匹管理研修
- ⑧ 他の事業所と連携してのポニー・馬の繁殖、調教、育成
- ⑨ 団体・個人での研修受け入れ・相互交流
- ⑩ 学校向け、修学旅行・オリエンテーションの受け入れ
- ⑪ ポニーライダーズカップ開催
- ⑫ ポニーステイ（小中学校へのポニー貸出しと運営・指導の支援）
- ⑬ NPO法人ハーモニカレッジとの人材交流、合同プログラム開発

1-3 相馬ポニー牧場・ポニークラブ

賠償請求を行った東京電力への対応を続け、施設については閉鎖措置をとる。

上柵窪を初め、鹿島区、南相馬市のために、新たにどんな協力、支援ができるかを模索し、地域の要望に応えた施策を行う準備（調査）を進める。

1-4 小貝川三次元プロジェクト

「子どもから高齢者まで」、「障害のある人もない人も」全ての年齢層の方が「いつでも参加できる」ことを基本とし、取手市柵木周辺の広大なフィールドを活用し、川（水辺）・陸上・空間と多岐にわたる事業（三次元プロジェクト）を展開する。

【事業内容】

- ① ポニー牧場の運営
 1. 乗馬（引き馬、団体レッスン・個人レッスン）
 2. 高齢者健康乗馬
 3. 川べり乗馬トレッキング
 4. 障害児・者の乗馬
 5. 移動乗馬教室（幼稚園・保育園・小学校・一般・高齢者）
 6. ポニー教室（三次元プロジェクト会員の小学校1年生～中学校3年生）
 7. ふれあい動物園（保育園・幼稚園・小学校・一般・高齢者向）
 8. キャンプの実施（自主事業・委託事業）
 9. 青少年ボランティアの育成
 10. 河川騎馬パトロール
 11. 河川整備
 12. 乗馬指導・乗用馬管理指導
- ② 小貝川生き生きクラブの運営受託（施設管理）
 1. パソコン教室（高齢者向け・週1回開催）
 2. 馬頭琴サークル（不定期開催）
- ③ 川遊び体験教室、子どもの水辺安全講座（5月～11月）
- ④ マウンテンバイクツアー（年2回程度）
- ⑤ 団体受け入れ
- ⑥ 子どもの水辺サポートセンター及びNPO法人川に学ぶ体験活動協議会所有資機材の管理と貸出業務

2 ポニーキャンプ®、ポニークラブ®、動物広場、牧場等の受託管理

動物広場（ふれあい動物広場、動物園）の運営は、全て各自治体とハーモニセンターとの間で交わす契約書・仕様書（委託）、協定書（指定管理者）に基づいて行われる。

【施設概要一覧】

	所管課	面積等	飼育動物	職員数
碑文谷	都市整備部みどり公園課	3,310 m ²	ポニー6頭・ウサギ・モルモット・アヒル・犬	6名
水元	教育委員会地域教育課	3,000 m ²	ポニー12頭・チャボ・鶏（15羽）	8名
相模原	環境保全部公園課	15,000 m ²	ポニー21頭・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウシ・ブタ・リスザル・アライグマ・シマリス・ミーヤキヤット・ハイラックス・シカ・ウサギ・鳥類・クジャク・チャボ等	19名 （内産休1）
万騎が原	財団法人横浜市緑の協会	14,000 m ²	モルモット・ヒヨコ・アヒル・日本鶏・ハツカネズミ	4名

板橋 2園	土木部 みどりと公園課	本園 1,907 m ² 高島平分園 583 m ²	ポニー4頭・ウサギ・モルモット・ヤギ・シカ・ヒツジ・フラミンゴ・クジャク・カメ・鳥類・リス等	10名
海老名	市民協働部文化 スポーツ課	2,014 m ²	ポニー2頭 モルモット	4名 (内産休1)
上千葉	都市整備部 公園課	2,100 m ²	ポニー5頭・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・シマリス・リスザル等	6名

【各施設事業内容】

2-1 碑文谷公園こども動物広場（ポニー園）

- ① ポニー引き馬乗馬（10：00～11：30、13：30～15：00）
- ② 団体向け乗馬ポニー教室(障害児グループ・幼稚園・保育園・学校・一般グループ)
- ③ ポニー乗馬教室（4～6月、7～9月、10～12月、1～3月の年4期、15：00～17：00）
- ④ 小動物とのふれあい（10：00～11：30、13：30～15：00）
- ⑤ 動物クラブ（動物飼育体験クラブ 10：00～17：00）
- ⑥ ポニーまつり(年1回)

2-2 水元中央公園子ども動物広場（ポニースクールかつしか）

- ① 健全児、障害児のための乗馬教室（平日 3：00～5：00）
（土日祝日 10：00～12：00 13：30～16：00）
- ② 幼稚園、保育園、特別支援学校等の団体乗馬教室（平日 10：00～11：30）
- ③ 乳幼児、小学生対象引き馬乗馬（開場日 10：00～11：30 13：30～16：00）
- ④ ホームページによる広報活動、日々の活動報告（毎日更新 年間2万人閲覧）

2-3 相模原麻溝公園動物広場

- ① 小動物とのふれあい（ウサギ・モルモット・ヤギ・ヒツジ）
- ② ポニー引き馬乗馬
- ③ 親子乗馬（二人乗り引き馬・提案事業）
- ④ 飼育動物利用のイベント開催（羊毛クラフトなど・提案事業）
- ⑤ 子育て支援の一環としての親子ポニー教室（提案事業）
- ⑥ ポニーボランティアの育成（提案事業）
- ⑦ 毎月の特別企画（父の日母の日乗馬、敬老の日乗馬、羊と記念写真など・提案事業）
- ⑧ ポニー教室
- ⑨ 障害児乗馬教室
- ⑩ 搾乳体験
- ⑪ 展示動物の飼育管理
- ⑫ 動物クラブ（飼育体験クラブ）の指導運営
- ⑬ 春・秋の動物フェスティバル
- ⑭ 近隣への出張乗馬教室
- ⑮ 幼稚園・保育園・学校等の団体の利用受け入れ

2-4 万騎が原ちびっこ動物園（野毛山動物園分園）

- ① 小動物とのふれあい
- ② 展示動物の飼育管理
- ③ イベントの開催（冬のミニイベント、ヒツジの毛や鶏の羽を使った工作教室など）
- ④ 野外活動センター体験キャンプ受け入れ
- ⑤ 年1～2回程度のポニー体験乗馬プログラム

2-5 板橋こども動物園(本園・分園)

- ① 小動物のふれあい(ウサギ・モルモット・山羊・羊) (本園・分園)
- ② ポニー引き馬乗馬 (本園通年・分園年5回)
- ③ 展示動物の飼育管理 (本園・分園)
- ④ ポニー教室 年5回 (本園) 4月～12月までの間 1クール5日間。
- ⑤ 馬車の運行 (本園) 毎月1回
- ⑥ 幼稚園・保育園・小学校・障害者団体等の受け入れ (本園・分園内容 モルモット抱っこ・引き馬)
- ⑦ 出張ふれあい教室 概ね年10回 (本園) 使用動物 モルモット・ウサギ・山羊・ポニー
- ⑧ 動物クラブの指導・運営(本園・分園 小学校3年生～中学生まで)
- ⑨ 動物園祭り (本園) 毎年10月 内容 日常業務に加え2人乗り引き馬・羊毛クラフト・動物パッジ他 冬のミニイベント 12月～2月毎週日曜日(分園)
- ⑩ 就労困難者の受入

2-6 海老名ふれあい動物施設(海老名ポニー広場)

- ① 馬車の運行
- ② ポニー引き馬乗馬
- ③ 小動物とのふれあい(ウサギ、モルモットなど)
- ④ 各種イベントへの出張活動
- ⑤ 幼稚園・保育園・学校等の団体プログラム
- ⑥ 夏、冬のポニー体験教室(それぞれ10回、5回)、春の親子ポニー教室
- ⑦ 物産品、関連グッズの販売

2-7 上千葉砂原公園ふれあい動物広場

- ① 小動物とのふれあい(ウサギ・モルモット・ヤギ)
- ② ポニー引き馬乗馬
- ③ 動物愛護クラブの指導運営(期間や時間を定めての実施)
- ④ ポニー教室の実施(3回・各5日間・各1時間)
- ⑤ 展示動物の飼育管理(リスザル・シマリス・鳥類)
- ⑥ 出張動物園の実施(区内の高齢者施設や障害者施設、養護学校が対象)
- ⑦ 職場体験(中学生・高校生・専門学校生)

3 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

3-1 ポニーを学校へ導入(「ポニーステイ」の取り組み)

学校へのポニー貸出し、派遣など、教育、福祉、医療等の現場でのポニー活用を働きかけてゆく。
日本各地からポニーを軸にした活動を公募し、ポニーの貸し出し(有償・無償)と技術指導、プログラム支援を行う。

蓼科ポニー牧場では、前年末に取り掛かった県内・伊那市立伊那小学校への長期貸し出しを引続き実施する。

3-2 グランドポニースクール(新潟県長岡市)

2週間にわたって市内の小中学校、高齢者施設をめぐり、移動乗馬教室を行うグランドポニースクールを9月11日から17日、9月26日から10月5日まで実施する。(委託)

3-3 帯広畜産プロジェクト（仮称）

2013年に始まった、帯広畜産大学が「馬」を中心に据えた教育・福祉・地域貢献への取り組みへの協力依頼を受け、下記の協力活動を行う。

- ② 「動物介在活動室」への職員派遣。
- ② 「No. 4ちくだい馬フォーラム（9月）」イベントへの協力。

3-4 葛飾区水元中央公園こども動物広場での介護予防乗馬（シニア版ポニースクール）の実施

葛飾区高齢者支援課からの委託事業。65歳以上の方を対象に、毎月1回、3ヶ月単位で体操・乗馬練習に取り組む。（年3回実施）

3-5 相模原麻溝公園ふれあい動物広場での子育て支援プログラムの実施

未就園児と親との親子のグループを対象に親子ポニー教室を実施。

4 川べり環境の整備及び活用の推進並びに社会教育に必要な指導者の養成

26年度、国土交通小関東地方整備局利根川河川事務所によって河川協力団体に認定された。認定申請の際に策定した5年間の活動実施計画に基づき、小貝川ポニー牧場を中心として河川に賑わいを取り戻し、環境点検・保全・清掃・事故防止・災害時に貢献するべく、活動する。

また、これまでもつながりのあった河内町、鹿島市との連携を強め、利根川を舞台とした活動を育ててゆく。

【事業内容】

- ① 騎馬による河川パトロール活動（年数回、危険箇所等のチェック、ごみ拾い）
- ② 移動乗馬教室開設（河川敷、各種教育福祉施設広場など）
- ③ 河川流域関連イベント参加
- ④ 河川流域関連学習、研究会の開催
- ⑤ 河川敷の除草

5 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

5-1 モンゴル国交流事業

モンゴルで26年、その前段の天山山脈越えから数えると33年を経過し、モンゴルの人々の暮らし、国の情勢も大きく変わってきた。訪問地、プログラム、現地パートナー、旅行社等々、一度全面的かつじっくりと見直しをするため、当年度は1度休止とし、29年どの再開に向けて研究・準備をする年とする。

5-2 日独青少年相互交流計画

日本とドイツの青少年がお互いの国を行き来し、異文化交流を通して学びあい、国際的視野を広げる機会とする。隔年で派遣と受け入れを交互に行っており、今年度は受入の年となる。

本事業開始時からのパートナーである大崎市鳴子国際交流協会と合同で派遣する。

また、新しい国内パートナー探し、協力団体探しの第一歩を踏み出す。

- | | |
|----|--------------|
| 日程 | 2016年10月中旬 |
| 人数 | 目標値 15人 |
| 対象 | 16歳～30歳の青少年。 |

6 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及

6-1. 治療的乗馬研究集会 動物介在教育療法学会への協力

「ライディングフォーオール」の理念の下、障害者のための乗馬プログラムの枠を越えて関係各団体との連携を深め、日本における馬事研究活動の柱にする。また、同様の指針に基づき「動物介在教育療法学会」への協力を行う。

※「治療的乗馬研究集会」…日本治療的乗馬協会、RDA JAPAN、日本障害者乗馬協会の4者との共催事業（26年度～27年度）
同研究集会では日常活動の研究成果として職員による事例発表を行う。

6-2. 産学協働プログラムの実施

日本大学、日本獣医生命科学大学、恵泉女学園大学、麻布大学との協働プログラム実施に向けた研究、調査、大学との調整。

学内外でのボランティアの育成、近隣の住民を招いての学内での体験乗馬会等に取り組む。

7 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

7-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行

- ① 発行ペース：月刊
- ③ 掲載内容：ハーモニセンターの行う「社会教育活動」の紹介
- ④ 発行部数：各号1, 500部
- ⑤ 設置場所：公的機関（役所・公立図書館）および有料で設置できる場所（郵便局・銀行）

7-2 WEBによる広報活動

幅広い層へむけた情報公開を行う。また、ハーモニセンターの公式ブログや公式Facebookと連携することで、常に新しい情報を迅速に伝えられるようにする。

8 その他

8-1 人材育成

8-1-1 職員

内外のシンポジウム、セミナー、研修会に積極的に職員を出席・参加させる。

8-1-2 ポニーキャンプカウンセラー研修

子どもトレーニングキャンプを中心とした、ハーモニセンターが主催する全ての事業に参加する青少年を対象とし、活動を通じてハーモニセンターの活動趣旨を理解・体感・賛同し、技術を体得する事で自信を持って積極的に活動を推進する一員となることを目的とする。

① 宿泊研修会

	研修会名称	実施期間	会場	参加数
1	新人カウンセラー牧場研修会	6月3日～5日	蓼科ポニー牧場	10名
2	登山研修会	6月25日～26日	八ヶ岳	10名
3	新人カウンセラー牧場研修会	7月8日～10日	蓼科ポニー牧場	10名

4	スキー研修会	2月3日～6日	ヤマボクワイルドスノーパーク	8名
5	牧場研修会	2月3日～6日	蓼科ポニー牧場	10名
6	牧場研修会	2月21日～24日	蓼科ポニー牧場	10名
	計 6回	延べ14泊		58名

* 6はハーモニカレッジとの合同研修会。

② 日帰り研修会

各種技術（ギター、レクリエーション、プログラム作り、ポニーの扱い、野外炊事技能等の自然体験活動、安全管理等）の習得及びカウンセラー同士の相互理解を目的とする。（会場は国立青少年センター、動物広場、蓼科ポニー牧場など）

8-2 他団体との連携等

8-2-1 役員等派遣

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会、NPO法人自然体験活動推進協議会、川に学ぶ体験活動協議会、公益社団法人日本キャンプ協会、NPO法人日本Gボール協会に役員を、中央青少年団体連絡協議会に世話人を派遣する。

8-2-2 運営協力

治療的乗馬研究集会、SAN (Social Active Network of outdoor education)、大都市圏動物園事務主管者会議、河川流域交流会の運営に協力する。

8-3 創立55周年記念事業・式典

55周年を迎える本年度、10月に記念事業を実施する。

8-4 団体運営体制整備

昨年度、専門家の力を借りて徹底的に行った団体内各種規程の見直し・整備を進めると共に、職員の待遇改善を図り、将来への不安を感じることなく、夢を持って日々の業務に取り掛かることのできる環境を作る。